教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 薬学科　　資格： 講師　　氏名： 安井　菜穂美

研究分野	研究内容のキーワード
生活習慣病予防	肥満・メタボリックシンドローム
学位	最終学歴
博士（薬学）	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科博士後期課程　修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.学修習慣の定着化の確認	2021年4月~現在	Googleクラスルームの課題提出・確認ツールを用い、課題の提出状況や内容を確認し、理解度や課題進度を確認する。
2.6年生　総合演習Ⅱ（代謝領域）	2019年4月~現在	6年生を対象に、代謝生化学領域についての講義・演習を実施する。
3.4年生　総合演習１（代謝領域）	2019年4月~現在	4年生を対象に、代謝生化学領域についての講義・演習を実施する。
4.１年次のまとめ　解説講義	2019年2月25日~現在	特別学期「1年次のまとめ」の模試（生物）解説講義を担当し、生化学領域についての解説、補講を行った。
5.学習習慣の定着化	2016年4月～現在	ポートフォリオを実施し、勉強方法などについても個別に確認し、それぞれにあった学習法などについて考え、実行することで学習習慣および基礎学力の定着を促すよう指導する。
6.代謝生化学	2016年4月～現在	新薬2年生前期に開講され、生体何のエネルギー産生、代謝について学ぶ。国家試験、生物領域の基礎的内容としても重要であり、少人数制、双方向型習熟度別講義を実施する。
7.生化学	2015年9月～現在	新薬１年生後期に開講され、生化学の基礎となる、タンパク質、糖、脂質の基礎的事項を修得する。生体反応の理解を深める為、生化学の基礎知識の定着を目標に、少人数制、双方向型授業を実施する。
8.学習習慣の定着化のための確認	2015年4月～現在	次回授業までの勉強計画、実施内容、計画達成具合を毎授業時に報告させ、フィードバックし、学生各自が現状を把握し、基礎学力定着のための学習内容を見直し、学習習慣の定着化を促す。
9.生命体の基本単位	2014年9月～2015年3月	新薬1年で開講されており、生化学の基礎となる、糖・脂質の基礎的事項を修得する。生体反応の理解を深める為、生化学の基礎知識の定着を目標に、少人数制、双方向型授業を実施する。
10.学習習慣の定着化	2014年4月～現在	学習習慣を定着させるため、講義内容をノートにまとめて提出することを義務づけ、毎授業、全学生に対し確認する。内容に不足があれば、コメントを加える。学生自身および教員が授業の理解度を把握でき、必要があれば授業内容を補足する。
11.生化学実験I	2014年4月～2021年9月	健康生命薬薬科学科2年生を対象に、生体の構成単位である細胞の構造を理解し、生化学をより深く理解するために、その構成成分である糖質、脂質、アミノ酸、タンパク質の分離や定性・定量法、免疫反応の基本について理解し、修得することを目標として実験実習を行う。
12.実習　生体成分と免疫を調べる	2014年4月～2021年9月	新薬2年生を対象に、生命の基本単位としての細胞の成り立ちを分子レベルで理解するために、その構成成分である糖質と脂質の構造や機能に関する基本知識を修得することを目標としている。 実験内容や結果について質問を投げかけ、各自あるいはグループで考えてさせる。実習レポートを作成・提出させ、内容を正しく理解しているかを確認し、到達度確認試験を実施する。 新型コロナウィルスの感染拡大予防のため、密を避ける観点から、従来のグループワークは難しい状況もあ

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
		るが、ビデオ講義を用いて補足し、理解を深めることをサポートする。
2 作成した教科書、教材		
1.生化学　練習問題（オンラインツール）	2019年9月1日~現在	代謝生化学の毎講義内容について、オンライン上で実施できる小テストを作成した。
2.総合演習１　代謝領域　講義	2019年5月~現在	新薬4年生開講の総合演習１、代謝領域の講義資料を作成している
3.代謝生化学　練習問題（オンラインツール）	2019年4月1日~現在	代謝生化学の毎講義内容について、オンライン上で実施できる小テストを作成した。
4.生化学　予習プリント	2019年4月~現在	講義内容および各自の理解度の確認のために、講義資料をもとに自習できるよう課題を準備した。
5.１年次のまとめ　講義資料	2019年2月20日~現在	特別学期実施の「1年次のまとめ」模試の生物解説講義および補講資料を作成した。
6.総合演習２　代謝領域　講義資料	2018年4月~現在	新薬6年生開講の総合演習2、代謝領域の講義資料を作成している
7.代謝生化学　課題	2016年4月～現在	新薬2年に修得する代謝生化学の内容について、理解度を把握し、繰り返し内容を確認できる問題を作成した。
8.代謝生化学　確認テスト	2016年4月～現在	新薬2年前期で修得する代謝生化学の基礎項目を確認するテスト問題を作成した。
9.代謝マップ	2016年4月~現在	新薬２年で修得する代謝生化学では、さまざまな代謝経路が登場する。それぞれについて、基質、生成物、酵素、反応の役割などについて、各自代謝経路を作成する教材を作成した。4年次、6年次の演習でも配布し、内容確認に使用する。
10.生化学　課題	2015年9月～現在	基礎学力定着を目指し、修得した内容を確認する問題集を作成した。
11.生化学　確認テスト	2015年9月～現在	新薬１年後期で修得する生化学の基礎項目を確認するテスト問題を作成した。
12.基礎項目確認プリント	2014年4月～現在	2014年から新薬１、２年を対象に実施している習熟度別講義において、知識定着のためのまとめプリントを作成した。
13.まとめ復習プリント	2014年4月～現在	授業で学習した内容について、問題・まとめ内容をμCamでアップし、学生の自主学習を促すよう教材を準備した。 内容は授業資料で答えが確認できる文章の穴埋め、国家試験問題の一部を取り入れた演習問題を総合したものである。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1.実務実習学生指導	2022年1月1日~2023年11月30日	平民堂薬局、ハザマ薬局、コーヨー調剤薬局
2.県立武庫荘総合高等学校　分野別説明会	2021年10月28日	県立武庫荘総合高等学校の高校生を対象に、薬学の進路について個別説明を実施した。
3.早期体験学習（薬局）前の指導	2019年9月~2022年3月	新薬1年早期体験学習の薬局実習生に対する指導を行った。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1.年次のまとめ実施委員	2019年4月1日～現在	１－3年次における年次のまとめとして、テストを実施し、低成績者には解説講義や学修サポートを実施
2.CBT・国試対策教育企画委員	2018年4月1日～現在	薬剤師国家試験に向けた一連の教育企画において、演

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
3.学生募集・広報（オープンキャンパス）の企画・運営	2017年4月1日~現在	習の企画・運営、学生サポートを実施 オープンキャンパスの学生募集企画・運営を実施。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
3 学術論文				
1.Indirect blood pressure determination using two types of tail-cuff devices in spontaneously hypertensive rats and stroke-prone spontaneously hypertensive rats.	共	2023年11月22日受理	武庫川女子大学紀要 第71巻 p.36-38	高血圧モデル動物（SHR、SHRSP）において、小型動物の血圧測定機器としてよく使われている２社（Softron、ウエダ）による血圧値の比較をおこなった。ウエダ製の機械が生産中止となるため、その代替機としてのSoftron社の血圧値について考察した。
2.下級学年成績を用いた重回帰分析による習熟度別講義のクラス判定とその評価	共	2020年7月27日	薬学教育雑誌 第4巻	三浦 健,安井菜穂美，篠塚 和正，三木 知博，野坂 和人. 習熟度別講義において，通常，クラス判定テストによりクラス判定を実施することが多い．しかしこの方法は 1 回の試験でクラスを判定するため，運用上の種々の問題が存在する．これの解消に向けて，下級学年成績を用いた重回帰分析によって成績推定モデルを構築し，このモデルに基づき学生の推定点数を求め，これに基づきクラス判定を行う重回帰判定法を導入し，その評価を行った．本法の導入前後での成績分布の変化を検討したところ，下位学生の成績が向上している傾向が見出され，導入に先立ち行ったシミュレーション結果と一貫性がみられた．本法の導入により運用上の問題も解消したと考えられ，習熟度別講義におけるクラス判定に本法が有用であることが示された.
3.生化学（代謝領域）の成績に対する性格特性の影響	共	2020年3月12日	武庫川女子大学紀要 第68巻 pp. 9-15.	生化学代謝領域の習熟度別講義において、その成績の伸びに対する性格因子（Big５や甘え）の影響を考察した。低習熟度の学生に甘えと性格因子において共通する傾向がみられ、今後の学生指導における教員の姿勢や課題の提示方法を検討する際に有用であると考えられる。
4.近畿圏内薬学部の2015，2016年度における薬剤師国家試験合否状況に関する検討	共	2019年3月	武庫川女子大学紀要 66 pp. 9-15.	三浦健、速水幹也、山森元博、安井菜穂美. 近畿圏内薬科大学の2015，2016年度の薬剤師国家試 験の修業年数内合否状況を、各大学の入試偏差値や 修業年数内5年進級率と比較分析し、薬学教育の現状 を考察した。
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1.高脂肪食誘発性NASHに対する麹多糖の効果	共	2023年3月26日	日本薬学会 143回年会	7週齢雄性マウスに高脂肪食を20週間摂取し、NASHモデルを作出した。NASHモデルに生活習慣病の改善効果が知られる麹菌の多糖類（麹多糖）を投与したところ、血中脂質および肝臓の脂肪肝およびNASHスコアの改善が認められた。
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
６．研究費の取得状況				

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
1.生活習慣病予防における研究支援	単	2022年6月~ 2024年3月		植物及び食品における生活習慣病予防に向けた機能性の研究
2.基盤研究（C）	共	2020年1月1日~2023年3月		食事因子のみで非アルコール性脂肪肝炎から肝癌へ進行するモデルの確立.

学会及び社会における活動等	
年月日	事項